



ニッポン画家

秋田公立美術大学アーツ＆ルーツ専攻准教授

山本 太郎

館（昔は小学校として使われていた木造の赴きある建物）、それから沖田面集落にある廃校になった小学校など、普段は人の手が入りにくくなっている場所を清掃、整理し、イベントの会場にふさわしい場所に変えていくところからがスタートです。

「ニッポン画」で秋田にさらなる魅力を！

平成25年4月より秋田公立美術大学が開学し私の秋田生活も始まりました。学生時代から京都に長く住んでいたので初めての秋田は新鮮な驚きでいっぱいでした。

春になると梅、桃、桜が一遍に咲き乱れることが、夏は京都よりは涼しいけれど意外と暑いこと、秋が早く来て短いこと、そして寒くなつたと思つたらすぐにびっくりするくらいの雪が降り出すこと。こうやって一年弱の時間を振り返ると、この土地は本当に自然とのつながりが強いことを実感させられます。

このプロジェクトが普通の美術展と異なつているのは、準備段階から主催者やアーティストが村の方々や一般のボランティアの方々と一緒にになって作業するところにあります。会

昨年とおととし上小阿仁村で開催された「KAMIKOANIプロジェクト秋田」というイベントに関わりました。これは普段は美術、芸術が日常生活に与える影響とい

ういふて使用した八木沢集落の棚田や公民館（昔は小学校として使われていた木造の赴きある建物）、それから沖田面集落にある廃校になった小学校など、普段は人の手が入りにくくなっている場所を清掃、整理し、イベン

トの会場にふさわしい場所に変えていくところからがスタートです。

上小阿仁村以外の地域から参加をしているアーティストやボランティアの人々にとって、村に残された豊かな自然は魅力的で、まるで桃源郷に迷い込んだように感じられます。普段は訪れないほどたくさんの方々がこの期間中に上小阿仁村にくることで、村の人々も、日常とは違う刺激があるようでした。特に今年は芸術家が村に滞在しながら作品を制作する「アーティスト・イン・レジデンス」というものを行いました。東京や京都などから長い人では一ヶ月ほど村に滞在しながら制作を行ふことで村の方との交流も自然と増えていきました。

上小阿仁村は自然が豊かな秋田の中でもさらに自然との結びつきが非常に強い地域であります。それでも良く見ると桃源郷とは違う現実も見えてきます。八木沢集落の棚田は耕作地として使われていない土地がたくさんあります。廃校となつた小学校も地域の少子化を物語っています。そうした今ではあまり光があたらなくなつてしまつた場所にもう一度別の角度から輝きを与える力を、このプロジェクトは秘めています。

●やまもと・たろう
1974年生まれ。熊本市出身。秋田市在住。2000年京都造形芸術大学卒業。在学中の1999年より日本画ならぬ「ニッポン画」を提唱。日本の古典絵画に現代の風俗が混ざったような作風の作品を描き始める。2007年現代美術の登竜門と言われるVOCAL賞を受賞。国内外で発表を続ける。ニューサウスウェールズ州立美術館（シドニー）、ミネアポリス美術館（ミネソタ）など海外の美術館にも作品が所蔵されている。



KAMIKOANIプロジェクト秋田2013での展示風景



「四季紅白幔図屏風」2009年
紙本金地着色 二曲一双 各169×167cm
熊本市現代美術館蔵



「青敷秋草圖屏風」2008年
紙本金地着色 二曲一双 各169×167cm
ミネアポリス美術館蔵

ジエクトに多くの人が関わることで村の日常に少しづつ変化が起きました。その変化の波が大きくなつたとき、気がつくといつもの日常がいつの間にか豊かになつていく。そんな緩やかだけれど確かな力を芸術は秘めているのです。

自分は伝統的な日本の古典絵画に現代が融合したような絵を描いて、「日本画」ならぬ「ニッポン画」と称しています。自然や伝統文化が多く残されたこの秋田という土地は自分の「ニッポン画」をさらに進化させるのに最適な場所だと思います。またそんな自分の芸術活動を通して秋田にささやかでも変化が起こることを期待しながら今後ここで生活を送つていきたいと思っています。